石川県公立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY
2018. MAR. Vol.33

IpNU キャンパスネット

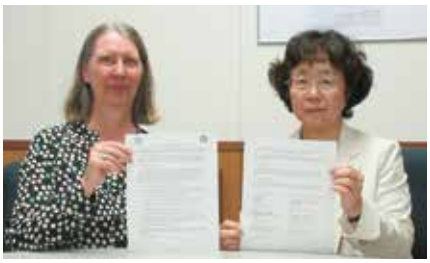
石川県立看護大学が取り組む国際貢献

JICA青年研修事業（地域保健医療実施管理コース）

本学は2015年から、自国での予防医学・公衆衛生分野における実施体制の課題解決を担うリーダーの育成を目指した研修をJICA（独立行政法人国際協力機構）の事業募集に応募し、実施しています。今回はタイより、医師や看護師、作業療法士、臨床心理士等の14名の研修生が参加し、11月29日から12月12日の日程で実施しました。研修生は本学で地域の保健医療に関する講義を受けた後、石川県庁、一次医療・二次医療・三次医療の施設、保健所、予防医学協会、かかりつけ薬局等を視察しました。医療施設だけでなく高齢者施設でのケアについても高い関心が寄せられていました。成果発表では、研修を通して学んだことを自国でどのように展開させていくかについてのプランをそれぞれ発表し、今後の活動を期待させてくれました。

視察に同行して

研修生は視察先で時間が許す限り活発な質疑応答を行いました。道中は、北陸の気候や風土に触れた貴重な体験となったようです。研修の最後には本学茶道サークルが開いた茶会に参加し、送別会では民族衣装に身を包んで在学生と一緒に踊るなど文化交流も楽しみました。



ワシントン大学との学術協定を更新

2017年7月24日、ワシントン大学看護学部ドレンボス教授が本学を訪れ、学術協定を更新する覚書に調印しました。本学は2003年3月に同大学と学術協定を締結しました。今後は協定のもとに続けられてきた交流実績をさらに多様な交流内容へと拡げていきます。

卒業式・学位授与式

卒業式・学位授与式を3月17日に挙行しました。石垣学長より、看護学部81名、大学院生8名（前期課程6名、後期課程2名）に対して、卒業証書および学位記が手渡されました。石垣学長は式辞で、「壁を越える挑戦をし、自分自身に勝てるよう努力してください」と激励しました。谷本正憲石川県知事、米澤賢司石川県議会議長からは、「本学で修得したことを糧として更なる研鑽を積み、人々に安心を与え、信頼される看護師・保健師になって欲しい」という祝辞をいただきました。卒業生代表の新保晶子さんが「4年間の学びを支えてくれた、教員、仲間、家族への感謝と今後精進していく決意」を、修了生を代表して大西陽子さんが「多くの支援を受けた教職員、家族への感謝」を述べました。式典の終盤では、合唱サークルの歌声と教職員や保護者の温かい拍手で、卒業生の活躍と新たな門出を祝しました。

学長表彰

優秀な成績を修めた新保晶子さん、災害ボランティア・サークルでの活動が評価された平光水城、山本菜津美、岩崎文香さん、県内の学生サークルでの活動や障害者スポーツの発展に寄与した西村陸さん、地域活動での貢献が評価された池本美有紀さん、地域への貢献やグローカルヤングリーダーの称号を3年次に授与された新田明里さんの合計7名が、学長から表彰状を授与されました。

新保晶子さん

平光水城さん

山本菜津美さん

岩崎文香さん

西村陸さん

池本美有紀さん

新田明里さん

卒業生の言葉

4年　北野　来弥

私はとても充実した4年間を過ごしました。それは、大学の講義だけでなく、アメリカ研修、大学外の多職種学生サークル、学校支援ボランティアなどを通して、看護に限らず地域や海外についても積極的に学ぶことが出来たからです。それらの経験を通して、日本だけではなく世界各地の医療や生活、文化を深く考えることが出来ました。その中でも特に、小児が退院した後の学校の受け入れ体制が整っていないことや、学校にも家庭にも居場所がない児童がいるという現実を目の当たりにし、「病院と学校の懸け橋になりたい」「子どもが安心して過ごせる居場所を作りたい」と思うようになりました。また、これらの経験は、「学都いしかわグローカルヤングリーダー」として評価していただきました。グローカルヤングリーダーとして、私は将来、保健室に留まらず学校・地域で活躍できる養護教諭になりたいと思います。

修了生の言葉

平成29年度 大学院 博士前期課程　大西　陽子

看護師として働いていた頃の「問い」を深めたいと思い大学院に進学しました。仕事と学業の両立は大変でしたが、充実した毎日を過ごせたと思います。看護をより良くしたいと信念を持って取り組んだ研究は、時にどう進めたらよいのか…と大きな壁にぶち当たることもありました。しかし、この大学でじっくり研究方法を学び、先生方や院生仲間の看護観に触れることで目標を見失わずやり遂げることができたと思います。これからも臨床現場に貢献できるよう研究を続けていきたいです。

平成29年度 大学院 博士後期課程　寺井　孝弘

博士後期課程への進学の動機は、小児看護の臨床を経て大学教育にかかわる事になったことです。教育研究の場に身を置く以上、自分の研究能力を高めたいと思いました。博士後期課程では前期課程の経験を踏まえ「育児困難心性尺度の開発」に取り組みました。多くのデータが多面的な分析を経てひとつの形になる過程は、苦労もありましたが、知的好奇心を満たす過程でもありました。この経験は、自分の研究者としての基盤になると感じています。この成果を活かした小児看護学の教育・研究を行いたいと考えています。

一方で、仕事をもち、家庭での役割も果たしながら、大学院で学ぶ厳しさも痛感しました。指導下さった先生方はもちろんですが、自分が学ぶことを様々な方が支えてくれたお蔭だと感謝しています。何らかの形で還元していきたいと考えています。まずは、苦労している院生の相談者になれたらと思います。

卒業生に聞く

訪問看護ステーションの管理者として利用者に寄り添って

ニチイケアセンター笠舞　訪問看護ステーション　（平成16年度卒業生）　小嶋　由香さん

私が病棟看護師をしていた頃、力を入れて行っていたことは在宅調整でした。病棟で行った退院指導が実際家に帰って生かされているのだろうかと患者さんのお宅にそっと様子を見に行くこともありました。今、病気を持ちながらも住み慣れた自宅で生活したいという利用者さんの思いに寄り添って看護できるよう訪問看護という自分の夢の実現に向けて努力を始めました。

現在は、利用者さんのお宅に訪問に行く傍ら、管理者として病院で行われる退院カンファレンスに出席したり、ケアマネジャーと連絡調整したりと、忙しく飛び回っています。

訪問看護は基本的に利用者宅に一人で訪問します。決められた訪問時間内に観察すべきこと、援助すべきことができたか、状態変化があったらどう判断すればいいのだろうか、など不安がつきものです。そのため日々の情報交換を密に行い、スタッフの訪問がスムーズに行えるよう管理者としても調整します。やりがいを感じる訪問看護の仕事、一緒に取り組んでくださる仲間を増やしたいと願っています。

新卒で訪問看護ステーションに就職して

オレンジホームケアクリニック　（平成27年度卒業生）　新田　大貴さん

その人らしく地域で暮らすことを支える看護師になりたい、そう思った私は、迷わず大学卒業後すぐに訪問看護師になることを決めました。当時、北陸で唯一のケースだったと聞いています。以来およそ2年、疾患を問わず幅広い年代の方々の人生に触れ、その人らしさを支えるとはどういうことか学ばせてもらっています。

大学時代はホスピスケアに関心を持ち、1年時から地域の「がんサロン」での活動に加わりました。そこで学んだのは自分を知ることの大切さでした。この時の経験は今の自分の土台となっています。本当に自分がやりたいことは何か、後輩の皆さんにも学生のうちからじっくり自分と向き合って欲しいと思います。

最近は、全国各地の看護学生らと交流し、訪問看護の楽しさや素晴らしさを伝える活動にも力を注いでいます。今後ますます病気を抱えながら自宅など住み慣れた場所で自分らしく生きていく人が増えるでしょう。生活目線を大事に、自分らしさを持って活躍できる新卒訪問看護師がもっと増えるように、これからも頑張っていきたいと思います。

北國新聞社　生きがい支援事業
認知症にやさしい町づくり

北國健康生きがい支援事業の2017年度石川県立看護大学プログラム「認知症者700万人時代をしなやかに迎える」を金沢市の北國新聞20階ホールで開催しました。第1部は、精神看護学の清水助教が講演し、認知症には記憶障害などの中核症状と、それに付随して現れる徘徊（はいかい）や幻覚などの行動・心理症状があることを解説しました。認知症になると周囲から「どうしてこんなことができないのか。」などと何気なく言われることが患者を苦しめてしまうことを指摘しました。第2部では、老年看護学の川島教授が、2025年に認知症患者数が全国で700万人に達する可能性があるとして、「一人一人が認知症を自分の問題として考えるべき、認知症の人も暮らしやすい町になるよう取り組んでほしい。」と先行事例を紹介しながら参加者に呼び掛けました。

新石川県立中央病院探訪

新病院全貌

広いエントランスホール

建替え工事・引越しが終わった新石川県立中央病院で、1月22日～2月1日の期間、3年生のⅣ段階実習（母性・小児・成人）を実施させていただきました。シャトルバスから病院へのスムーズな連絡、学生1人につきセキュリティカード1枚の貸与、学生記録室とつながった更衣室、各実習病棟での学生控室の確保、カンファレンス・指導場所の充実等、学生にとって大変快適な学習環境になりました。今後も学生が多くの学びを得られるよう、看護部・実習指導者とより一層協力して実習の充実を図りたいと思います。

指導を行う学生（成人）

実習報告を行う学生（小児）

実習指導を受ける学生（母性）

カンファレンス風景（上：成人、下：母性）

この１年を振り返って

第Ⅰ段階実習（フィールド実習）

フィールド実習から学んだこと

フィールド実習で、ある集落を訪ね、集落で暮らす高齢者の方とその地域の料理を一緒に作り食べることを通して、集落での暮らしについて教えていただきました。その中で学んだことは、「前に踏み出す」ということです。グループでの活動では前に踏み出すことで協力することができ、活発な意見交換ができました。実習先では地域の方々と積極的に会話をすることで、自分が知りたかったこと以上の話を聞くことができました。この経験はこれから先の大学生活だけでなく、看護師として働く時にも役に立つと思います。このフィールド実習での体験を忘れずに、看護を学んでいく中で活かしていきたいです。

1年　徳本　晴夏

第Ⅱ段階実習（基礎看護学実習Ⅰ）

この1年を振り返って

基礎看護学実習Iは、観察から得られる情報量の多さを実感しながら、意識的に対象者の立場に立って生活を理解する学びでした。4月からコミュニケーション技術など看護技術を学んできましが、実際に看護技術をどのように使い、利用者さんを援助しているのかが見えてきました。また、職員の方が働いている時に意識していることを伺いました。忙しさを利用者さんに感じさせないように歩いて移動するなど、利用者さんの気持ちを考えた工夫がありました。実習では、コミュニケーションに苦戦しながら利用者さんの思いを少し理解することができたと感じています。これからも、知識を増やし、今回経験したことを活かし学んでいきたいと思います。

1年　荒木　美嬉

第Ⅲ段階実習（基礎看護学実習Ⅱ）

基礎看護学実習Ⅱでの学び

大腿骨頸部骨折後でアルツハイマー型認知症による記憶障害と不穏状態がある高齢の女性を受け持たせていただきました。私は身体的なアセスメントとともに患者の言動の意味を考え行動を共にしました。痛みや不安をうまく言葉で伝えられない患者に対して、少しでも安心して過ごせるよう、車椅子座位ではクッションを用い、患者が興味を示す本等を探してコミュニケーションを図りました。患者は「おしり痛くない．ありがとう」、穏やかな表情で「遠慮しないで、ここに」と自分の隣に座るよう促す等、患者のもつ力に気づきました。この実習を振り返り、知識・技術だけでなく、相手に関心をもち個別に対応する力が求められると実感しました。3年次の実習に向け、日々授業で学ぶ知識を定着させるよう一層の努力が必要だと強く感じました。

2年　中村　さくら

第Ⅳ段階実習

Ⅳ段階実習を終えて

Ⅳ段階実習を通して、ライフサイクル各期の健康問題について理解し、看護実践につなげてきました。改めて、看護師はさまざまな専門職の中で最も患者さんたちとの距離が近いと認識し、関わり方一つで対象の方の在り方に変化が生じると実感できました。また、現在の状態にばかり目が向いていましたが、経過を追って将来を予測した看護を行うことや家族への支援、多職種連携の重要性について学びました。時には自身の知識不足を痛感し、困難を感じることもありましたが、仲間と共に乗り越えることが出来たと思います。実習での学びを生かし、自己の課題については勉学に励み、より良い看護を提供できるようになりたいと心から思えるようになりました。

3年　島田　優子

第Ⅴ段階実習

この1年を振り返って

訪問看護ではいくつかの対象者の方を訪問させていただき、地域で継続して暮らしていく上での様々な工夫を感じることができました。病院とは異なり、対象者ひとりひとりが違う環境の中で生活されているので、対象者や家族の生活に焦点を置くことの大切さや、疾患によって引き起こされる生活上の困難に視点を向ける必要性を学びました。また、対象の困りごとを解決するために他職種の連携を通して対応する場面を見る機会があり、地域でも他職種連携の重要性を感じました。今後臨床で働くときには、入院時から退院して地域で暮らすことを想定した看護を実践していきたいと思います。

4年　馬場　菜摘

キャンパスライフ

平成29年度夏期アメリカ看護研修

2017年9月1日～9月14日の2週間にわたり、アメリカのワシントン州シアトル市で夏期アメリカ看護研修を実施し、学生22名（3年18名、2年3名、1年1名）が参加しました。

学生たちはプログラムを通して、アメリカの医療・看護からアメリカの社会問題や医療制度を関連付けて見識を深めました。あらためて日本の医療、制度、これまで受けてきた健康教育に重要な意味があったことも知る研修となりました。英語の難しさと楽しさを同時に感じつつ、ホストファミリーをはじめ色々な人の優しさに触れ、もっと英語で感謝を伝えたい、もっと相手と近くなりたいと日に日に英語のコミュニケーション能力を向上させていました。

秋のオープンキャンパス

2017年10月28日、秋のオープンキャンパスを実施しました。高校生、保護者あわせて107名にご参加いただきました。入試準備セミナーでは、本学の求める学生像、小論文と面接対策について本学教員が具体的に説明しました。参加した高校生のほぼ全員から役立ったという評価をいただきました。4年生が中心となり、看護実習、タイ看護研修について発表しました。また自主的なボランティア活動の学びを単位認定するヒューマンヘルスケア科目は本学独自の科目です。この科目の単位を認定された4年生が自身の活動について発表しました。高校生からの入試やキャンパスライフなどに関する質問にも学生が丁寧に対応しました。

国際交流の集い

国際的な視野を養い海外で学ぶことを動機付けるため、2月20日（火）に2名の講師をお招きして、「国際交流の集い」（講演とフリーディスカッション）を開催しました。

中村フランツィスカさん（研究者・主婦、ドイツ出身）は、「留学の楽しさと辛さ」というテーマで、カルム・ガルトさん（石川県国際交流員、アメリカ出身）は「海外生活での挫折と成長」というテーマで講演し、日本と母国の文化・価値観の違い、留学で得られたこと、外から日本がどのように見られているか、等を中心に、ユーモアを交えながらお話いただきました。講演では学生へ「どんどん海外に行って、素敵な留学経験をしましょう!」とエールを送っていただきました。

フリーディスカッションでは、グループに分かれて講師を囲み、和やかな雰囲気の中、意見交換を行ないました。最後には国際交流サークルの河端優佳さん（2年生）、中村乃々佳さん（2年生）が、お礼と感想を英語で述べました。学生12人、教職員14人が参加し、国際交流への関心が芽生え、自分を見つめ直す良い機会となりました。

地域ケア総合センターより

研修会「こどものこころを育てる遊び」を開催しました

本学が包括的連携協定を締結しているかほく市の子育て支援課と平成27年度から「子育てしやすい街づくり」について議論を重ね、学生ボランティア「看護大子育て応援隊ひよっこ」による支援を行っています。その活動の一環として2月24日（土）にかほく市保育園職員会との合同で、まあ先生こと菊地政隆先生（しらこばと幼稚園園長、静岡第一テレビ「げんきっず」歌のお兄さん）をお招きして研修会「こどものこころを育てる遊び」を開催し、保育士を中心に約160名が参加しました。数々の手遊び・歌遊びやお話を通して、こどものこころを育てる保育、こどもと良好な関係を構築するための看護について考える良い機会となりました。

看護キャリア支援センターより

認知症看護認定看護師教育課程第一期生が履修を修了し羽ばたく

2018年2月14日、認知症看護認定看護師教育課程第一期生33名が修了式を迎えることができました。8ヶ月間にわたり、専門的な講義・演習・臨地実習に熱心に取り組んできました。修了生代表が「仲間と共に学んだことを看護に活かし、認知症のその人から学ぶ姿勢で努力を続けていきたい」という決意とお世話になった方々への感謝を述べました。今後は、日本看護協会の認定審査を受け、認知症看護認定看護師となり、看護職の役割を考えながら活動に取り組んでいけることを願っています。

附属図書館より

図書館で学術情報を得ることが難しくなる!?

世界の論文数が増え続けるとともに学術雑誌の価格が高騰し、大学図書館、特に本学のような小規模大学の図書館では、世界中の論文へのアクセス（論文検索や論文を読むこと）に制限がかかることが懸念されています。これに対して、国内532館を会員とする「大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）」が2011年に設立され、JUSTICEが一括購入した雑誌のバックファイル（創刊号から一定時期までの古い発刊の電子ジャーナル）に全大学が公平にそして安定的にアクセスできる環境が整備されています。今後は、これにアクセスできるようにするとともに、オープンアクセス*に関する内外の動きに対して、長期的視点で情勢を見据えながら学内のコンセンサスをはかっていくことが必要であると考えています。

参考:安達淳（国立情報学研究所教授）「危機に瀕する学術情報の現状とその将来」本学での講演会資料
*オープンアクセス:論文のインターネット上での入手に障壁をなくし、誰もが閲覧できるようにすること

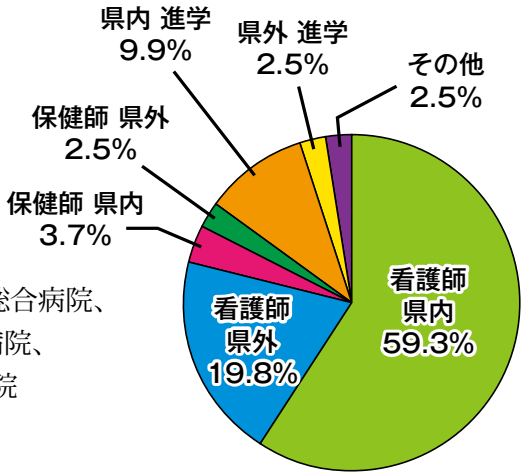
石川県立看護大学グローカルはまなす基金

開学から17年が過ぎようとしている今日、社会や家族の変化、医療経済の危機に対応した医療の再編が間近いことが聞こえてまいります。本学では今後ますます時代や地域にあった看護師・保健師を輩出する努力を重ねる所存です。そこで今般、学生・大学院生の国内外研修を推進する事業や、教育・研究活動において地域社会に貢献する事業を推進することを目的に、「グローカルはまなす基金」を設立しました。趣旨にご賛同いただける方からのご寄附をお待ちしております。

お問合せ先(石川県立看護大学総務課)　076−281−8300

卒業生の内定状況

平成30年3月31日現在の就職内定・進学状況は次のとおりとなっています。



平成29年度卒業生
内定状況

<県内就職内定・進学先>

【看護師】石川県立中央病院、金沢大学附属病院、金沢医科大学病院、公立松任石川中央病院、金沢医療センター、金沢赤十字病院、公立能登総合病院、金沢市立病院、公立穴水総合病院、JCHO金沢病院、済生会金沢病院、輪島市立病院、珠洲市総合病院

【保健師】石川県、輪島市、能登町

【進　学】金沢大学養護教諭特別別科、石川県立看護大学大学院助産看護学分野

<県外就職内定・進学先>

【看護師】富山県立中央病院、富山大学医学部付属病院、砺波総合病院、高岡市民病院、福井大学医学部附属病院、名古屋第一赤十字病院、聖路加国際病院、三井記念病院、新百合ヶ丘総合病院、国立循環器病研究センター、近畿大学医学部附属病院など

【保健師】岐阜県岐南町、長野県高山村

【進　学】新潟大学・岡山大学養護教諭特別別科

平成30年度 キャンパススケジュール

夏のオープンキャンパス
7月14日(土)開催!

前期		
入学式	4月 4日(水)	
ガイダンス	4月 4日(水) ～	4月 6日(金)
授業開始	4月 9日(月)	
履修登録受付	4月 5日(木) ～	4月 11日(水)
開学記念日	5月 29日(火)	
夏のオープンキャンパス	7月 14日(土)	
補講・試験	7月 30日(月) ～	8月 8日(水)
夏季休業	8月 9日(木) ～	9月 30日(日)
夏期アメリカ看護研修	8月 31日(金) ～	9月 13日(木)

後期		
授業開始	10月 1日(月)	
履修登録受付	10月 5日(金) ～	10月 10日(水)
大学祭(看大祭)	10月 27日(土) ～	10月 28日(日)
秋のオープンキャンパス	10月 27日(土)	
冬季休業	12月 22日(土) ～	1月 6日(日)
補講・試験	2月 8日(金) ～	2月 20日(水)
春季休業	2月 21日(木) ～	
卒業式・学位授与式	3月 16日(土)	予　定

石川県公立大学法人
石川県立看護大学　看護学部看護学科　大学院看護学研究科
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

〒929−1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地　TEL 076−281−8300　FAX 076−281−8319
URL http://www.ishikawa-nu.ac.jp　e-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

版権は石川県公立大学法人に帰属します

リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。